

主張

金属労協副議長／自動車総連会長 相原 康伸

2013年 総合生活改善の取り組みに思うこと

昨年末の第46回衆議院議員選挙の結果は、私たちの支援する民主党の惨敗で終わりました。短期決戦と言われた闘いではありませんが、各構成組織のリーダーはもとより、全国各地の職場や地域の最前線で努力した数多くの仲間にとって、強い脱力感に苛まれる結果となりました。この上は、労働組合の生命線とも言える、職場の一人ひとりと組合役員がその信頼を今一度しっかりと確かめ合い、2013年総合生活改善の取り組みをはじめとするJCM、各構成組織が掲げる様々な取り組みに当たっていかねばなりません。

政権の政治的発言に 惑わされる必要はない

さて、再びその座を奪取した新政権は、金融政策、財政政策、成長戦略からなる、いわゆる「3本の矢」をもって、日本経済の再生にあたるこの決意を示したところです。さらには、あらゆる分野での「規制改革」を大胆に進めるための検討も進められています。政権交代以降の超円高の是正や株高の動きは、それ自体否定するものではありませんが、明らかに期待先行の様相を呈しており、現段階において実体経済、とりわけ、家計や雇

用などの実相は経済指標の発表を待つまでもなく、「なんら変化無し」が多くの働く仲間の実感に違いありません。むしろ、将来世代に負の遺産を残しかねない、「賭け」にも似た政策の行く末を危ぶむ論調が付きまといつつあることも忘れてはなりません。

こうした中、安倍首相をはじめとする主要閣僚が、経済団体トップに対し、「報酬引き上げなどの所得環境の改善」、すなわち、2013年の総合生活改善の取り組みでの具体的な対応を求めるといふ異例の形となっています。同時に、「賃金

引き上げは連合の仕事」「連合の代わりに経営者にお願している。」と言って憚らない状況にあります。そして、政権の意向(?)を先取りする形で気鋭の経営者が従業員への配分を高めるとのニュースが話題をさらっています。断面だけをとらえれば、民主党への期待と失望、そのギャップの大きさも手伝って、「自民政権は結果を出しているのでは？」との受け止めが経営サイドのみならず、働く者サイドにあっても不思議ではないかもしれません。一方、「これは連合分断を狙ったもの。」との報道もあります。今一度、こうした政府

の対応に対する私たちの姿勢を整理しておく必要がないでしょうか。勿論、黙殺する方法もありますが最低限、政権の「政治的要素を含むと感じざるを得ない言動」に惑わされる必要は無いように思います。

JCMに集う仲間の「当たり前前」に価値がある

政府の再三の要請に対しては、「政府のお考えは会員各社にお伝えしている。」「業績が上がったところは、賃金や雇用の拡大で。」との経済団体トップの返答であったと伝えられています。賃上げなどを促す政府の言動は、「デフレマインドの払拭」に向けられたものと百歩譲ってその意義を限定的に見出すとしても、定昇自体を今次取り組みの論議対象としている「経営者労働政策委員会報告2013年版」とは既に齟齬があり、「環境が整うところは、個々の判断による賃金引き上げも否定されるものではない。」との返答さえ本年の経済団体からは期待し難

いものがあります。

こうした環境に置かれた2013年の取り組みにおいて、金属労協に集う私たちが再確認すべき点があるとすれば、体質改善、体質強化に黙々と励む日々の職場の営み、そして、それを支える一人ひとりの努力とチームワーク、それらに対する揺らぎ無い誇りではないでしょうか。政府に促されるまでもなく、労使が職場に向き合い、将来を拓く組合員に対する期待を基に、ぎりぎりの協議・交渉の中で、結論を見出さねばなりません。こうした労使自治の原則は、これまでも、そして、これからも、金属労協に集う私たちが「当たり前前」として培ってきた運動であり文化です。凄まじい国際競争に打ち勝っていくには、表面的な競争力をいくら糊塗しても勝負にならないことは私たち自身が一番承知をしています。働く仲間に対する限らない慈しみ、競争力強化に向けた具体的な施策の見出しとさらなる付加価値を生み出す働き方、その中で労働条件の決定と

いう、まさしく、「民間、金属、ものづくり」の部隊が力を合わせ、練り広げてきた協議・交渉が、日本経済の成長・発展と日本社会の安定、さらには日本の労使関係の基盤強化の好循環に向かわせてきた事に疑いはありません。

同時に、現在、困難な事業構造改革に直面している私たちの仲間が、いふことも事実です。次なる成長の芽を育み、新たな発展の方向性を確かなものにするためにも日々、協議・交渉を続ける労使がいます。そして、また、基本的なワークルールにさえ守られにくい、多くの働

く仲間が年々拡大している現実から目を背けることは出来ません。

最後に、私たち現代に生きる金属労協役員は、金属労協に残された先輩諸兄の数々の英知と努力を糧に、「新生JCM」として、組合員とそのご家族の幸せ、そして、次の日本を担う若き世代に一人ひとりの成長の舞台である多くの職場、良質な雇用の届けられるよう、精一杯の取り組みを展開してかなくてはなりません。共に頑張りましょう。



金属労協副議長／自動車総連会長
相原 康伸 あいはら・やすのぶ

1960年5月、東京都生まれ。
法政大学経営学部卒業。
83年4月トヨタ自動車入社。
90年9月トヨタ自動車労組執行委員。92年9月全トヨタ労連執行委員。94年トヨタ自動車労組局長。
96年9月自動車総連局長。98年9月トヨタ自動車労組副執行委員長。2002年9月全トヨタ労連事務局長。2008年9月自動車総連事務局長。
2012年9月 金属労協副議長(現)、自動車総連会長(現)。2012年10月 連合副会長(現)。2013年2月 UNIH日本加盟組織連絡協議会議長(現)